

第21回 夢アイデアコンテスト

「ちょっと興味あることを気軽に地域の人に教えてほしい」

隣に住んでる人でも、全く知らない資格や特技を持っているかも。

もしかしたら隣の家の人が自分がちょっと興味がある FP の資格を持っているかもしれない。

今育てるのに悩んでいるオリーブの木を何年も育てているかも。

そんなに大したことではないけど、ちょっと相談したいかもしれないことはたくさんある。

そんなちょっと困っている人と、その人のちょっと先を歩いている先輩をつなげられたらいいな。

思いついたきっかけ

ちょっと山菜に興味を持って。ただ、自分の家の近くでそんな場所があるのかもしれない。知識もない。遠くまで行ってまでやりたいわけでもない。運よく気になった時にそんなイベントがやっているなんて運がいいことがあったらいいのに。とそこで、イベントないなら本人が企画しやすいような仕組みがあったらいいなと思った。

地域掲示板みたいな

見たことはない。だが、昔の地域掲示板のイメージ。こんなことに今困ってます、ちょっと興味あります、と気になっている人側が発信する。近くの誰かがそれに応える。

本当に地域に限られたアプリみたいな

SNS にはない地域性が欲しい。今の時代、ちょっと勇気を持って X とかでたくさんハッシュタグつければ誰かが見つけてくれるかもしれない。けど、怖い。どこに住んでるかもわからない。その地域の人だけ、本当に小さなコミュニティの人しか使えない、使わないものにしたい。同じ地域だったら何か怖いことあっても逃げれる。気がする。知らない場所より自分が馴染んでいる場所だったら行きやすいし安心感がある。

地域の広報誌でも呼びかけ

地域性、という面で一番使えるのは地域の広報誌だと思う。自分も身近な情報が多くてつい読んでしまう。その範囲、くらいがちょうどいい。遠くまで行ってやりたいほどのことでもない。ということがほとんどで。呼びかけてもらったら結構気になって、近くでよくて、自分の知識で良いなら暇だし助けてやるかという人も多いのでは。

具体的な使い方

①地域の人しか入れないようにする

広報誌に書いているパスワード入れないととか。

②やってほしい企画をかく

例)「わらびとってみたい』

③できる人が答える

チャットみたいな感じで返信できるようにする。会う場所とか決める。後述するがポスターとかにまとめて貼り出す。

④実際にやってみる

とにかく簡単に。

1時間 1000円とか、謝礼金も一律にする。

ほんとは無料にしたいけど、そうすると答えてくれる人とかいなくなってしまう気がして。

それ以外は何にもいらない、ということにすれば良いのではないかと。

アプリで集約、紙媒体で募集

やりたいことを思いつく人は若い人、アプリとか気軽に入れられる人イメージ。

答えてくれる人は少し時間があるイメージがあるお仕事定年退職されたご年配の方とかだといいなと思った。

そのため、地域の老人施設とか、ポスター、地域広報誌に積極的に載せてもらう。

できればご好意で・・・だと嬉しいのだが流石に現実には厳しいのかなとも思いつつ。

そのポスターとかに「わらびとりたいです (電話番号)」くらいの情報だけ、ずらっと並べる。

アプリはあくまでまとめる手段くらいでもいいと思った。もういいやと思って消したり、もう決まったとかで消したりと、頻繁に更新する必要があり、ちょっとめんどくさいけど。

懸念点と解決方法

相手の顔が見えない

→自分の知っている場所でなら比較的安心かも。例えば、公民館、近くのお店とか。

ちょっと気になることがあっても自分からアタックしにくい

→自分からは、やりたいことを発信するだけで OK。